

「リサイクル問題」など、まさに現在、生命と環境をめぐる切実な課題を取り上げてきて、立法化を図ろうとしていた。幸いに、時間切れで、採決には至らなかった。まだまだ審議の時間がもっと必要であった。そうして問題や課題の本質や困難さが見えてくるはずである。

- ④今後の課題として、これらの取り組みの結果や評価を、生徒たちが、どのように行っていくかは、興味があるがその先は不明である。生徒が人生を自分で拓いていく力になることを願うものである。さらに今後の展開を知りたいと思っている。

2. 高・大一貫をつなぐもの

この総合人間科は、生徒に今後の生活・行動の基盤になる思考や態度を身につけさせていくと確信し、また羨ましくもあった。ちなみに私が、この1年間、20名足らずの構成で「基礎ゼミ」授業をもったが、学生の取り組みには、高校の生徒たちの他人の意見を“我がことのように聴く”ことは、目標であったが、なかなか出来にくかったことを思いつつ、教室を後にした。(平成13年度 文部科学省研究開発学校研究開発実施報告書 第2年次より転載しました)

名古屋大学教育学部附属中・高等学校の教育力

名古屋大学大学院教育発達科学研究科 吉田俊和

新しい時代を先取りした教育理念

昨年度より、研究開発学校運営指導委員を引き受けていますが、最初に開発課題である「高大の連携」を生かした「青年期のキャリア形成」—総合的学習の発展を軸とした併設型中高一貫カリキュラムの開発—を目にした時、「何をやるのかな?」と思いましたが、それまでの先駆的な総合的学習研究を生かし、「生徒の自己概念形成と進路の自己決定」を目指しているのかなと感じました。これに、中高一貫、高大連携という附属学校の特色を生かした味付けがうまく生かされていけば、これからの中等教育に必要な方向性を提言できるのではないかと、とも思いました。

実際、大学で教えている多くの教員が感じていることは、「学ぶ意欲」の欠如した学生や「不確な自己像」をもった学生が増大していることである。もちろん、大学教育にも多少の問題はあるが、主たる原因は、中等教育までの「教育の在り方」にあると考えられる。最近、週5日制に伴う授業時間の減少は学力低下問題を引き起こすという主張があるが、授業時間を増やしても学ぶ意欲がなければ同じであり、家庭での自発的学習時間は限りなくゼロになる。一定の必要知識を強制的に付けさせたいなら、「落第制度」を導入した方が効果的であろう。豊かさと学歴が結びついていると信じられていた時代には、「競争」が原動力となって中等教育は支えられていた。しかし、競争しなくても大学へ入れるし、学歴は神話に過ぎないことが露呈してしまうと、中等教育を支えていた土台が崩れ始めたのである。それに替わるものが、「自ら学ぶ意欲」であり、「生きる力をつける」教育であろう。

附属学校が平成7年度から取り組んできた「総合人間科」は、新しい時代を先取りした授業であり、それを発展させている今回のカリキュラム開発には、大いに期待している。「総合人間科」を始めた頃は、必ずしも全教員が教育理念を共有していないのではないかという風潮もあったが、7年の歳月を経て、その懸念も薄らいでいる。新しく加わった中学校での選択プロジェクト、高校での新教科群は、既存の教科とうまく融合できれば、生徒の「学ぶ意欲」や「進路の自己決定」に大いに役立つはずである。

こころの教育

中高一貫教育のもう一つの利点として、「人の行動のしくみ」、「対人関係」、「集団や社会」に関して得られた社会心理学や教育心理学の知見を、生徒に体験的に教えることにより、社会的コンピテンス(対人関係能力、集団や社会に対する自律的適応力等)や社会志向性を高めるための授業プログラムが開発されていることである。「ソーシャルライフ」と命名された授業では、教える側の価値観を押しつけるのではなく、人間の行動に関する事実を提示し、それをもとに生徒が自分たちで理解を深めていくことを目的としている。すなわち、授業自体は、生徒の「考える能力」を刺激することであり、結果として、社会的コンピテンスや社会志向性を高めることが目的である。

この考え方は、対象が「アカデミック」なものから「ソーシャル」に替わっているだけで、自ら考えて生きる力をつけていく、という点では総合人間科の考え方と軌を一にしている。筆者自身は、平成12年度から

5. 外部評価

授業プログラムの開発に関わっているが、附属の先生方も精力的に協力してくださっている。日本教育心理学会の自主シンポジウム等で、この授業のコンセプトや授業案を紹介したところ、多くの現場教師から注目を集めた。こうした授業が実践できるのも、附属学校の教育力が高まってきた証左であり、さらなる研究成果を期待したい。

(平成13年度 文部科学省研究開発学校研究開発実施報告書 第2年次より転載しました)